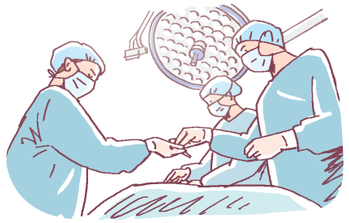
赤ちゃんと子宮を一度に失った、希さんの症例

ひとりっ子として育った希さん（仮名）の夢は、
たくさん子供を作って、
にぎやかな家庭をもつことでした。

24歳で結婚して、翌年に初めての妊娠。
彼女は幸せの階段を登っていることを
感じていました。

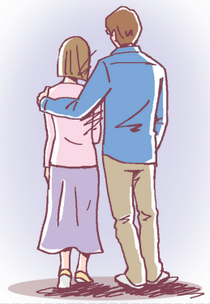
ところが、妊婦健診で子宮に
異常な細胞が発見されました。
精密検査の結果は、
早期（Ⅰb1期）の子宮頸がん。



早期とはいえ、がん細胞だけを切除することはできませんでした。
希さんの子宮は、16週の赤ちゃんが入ったまま、卵巣やリンパ節と
ともに摘出されました。

希さんは子宮頸がんに無警戒だったわけではありません。
妊娠する３年前、自分の意思で子宮頸がん検診を受け、
「異常なし」と診断されていたのです。それだけの準備を
していても、子宮頸がんは希さんから夢を奪っていきました。

（実際の症例を基にしています）



大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学教室提供

このたび、子宮頸がんの予防に向けて、ＨＰＶワクチンに関する正しい情報をお伝えするとともに、検診の受診促進を図るためにリーフレットを作成しました。

私は、予防できる子宮頸がんに対して、「できることはしっかりと行い、救える命を一人でも多く救っていきたい」との強い思いを持っています。

このリーフレットが、子宮頸がんについて皆さんで話し合い、理解を深めるきっかけになることを願っております。

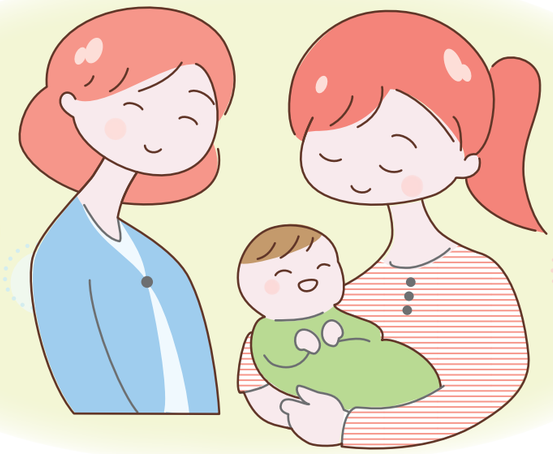
岡山県知事　伊原木 隆太

＜問い合わせ先＞　岡山県保健福祉部健康推進課（岡山市北区内山下２－４－６）

▶HPVワクチンに関すること　感染症対策班　TEL：086-226-7331
▶がん検診に関すること　健康づくり班　TEL：086-226-7328

岡山県健康推進課のホームページでは、子宮頸がんに関する情報をご案内しています。
http://www.pref.okayama.jp/site/528/　岡山県　子宮頸がん　検索

娘さんを持つ保護者の方へ



子宮頸（けい）がんは、毎年多くの若い女性から「いのち」と「未来」を奪っています。

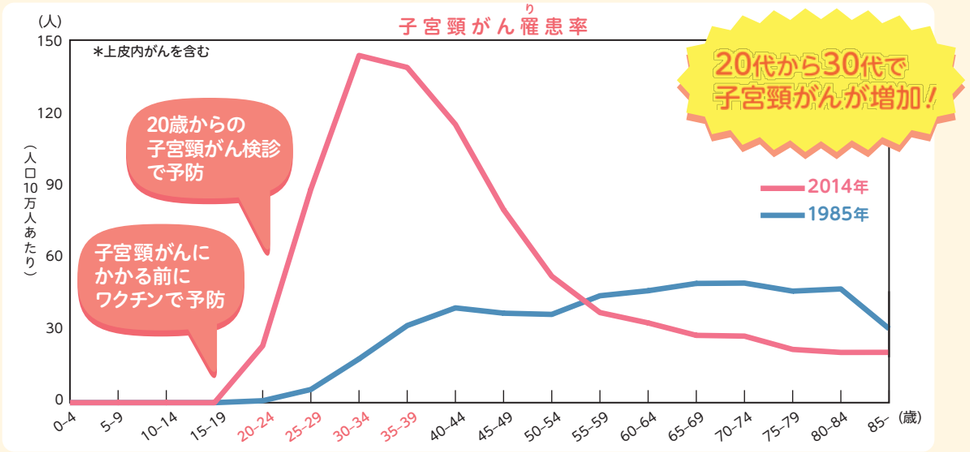
子宮頸がんは女性の子宮の入り口付近にできるがんで、日本では毎年約1万人が子宮頸がんにかかり、約3千人が亡くなられるなど、大変深刻な状況となっています。近年、若い世代で子宮頸がんにかかる人が増えており、子宮頸がんのために妊娠できなくなる20代・30代の女性が毎年約1,200人いると考えられます。

子宮頸がんは予防できるがんです。子宮頸がんについて正しく理解し、予防しましょう。

子宮頸がんの予防方法は、「HPVワクチンの接種」と「子宮頸がん検診」です。

岡山県マスコット「ももっち」

HPVワクチンは予防接種法に基づく定期接種です。
小学校6年生から高校1年生相当の女子は、公費（無料）で接種することができます。
ワクチンの有効性と、接種後に起こりえる症状について知っていただき、接種をご検討ください。
また、20歳になったら子宮頸がん検診を受けましょう。



【出典】国立がん研究センター がん情報サービス がん登録・統計

岡山県
OKAYAMA PREFECTURE

令和元(2019)年８月
作成　岡山県保健福祉部健康推進課
監修　岡山県産婦人科医会、子宮頸がんゼロプロジェクト岡山

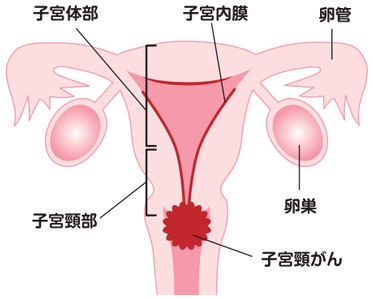
◎子宮頸がんってどんな病気なの？

子宮頸がんは女性の子宮の入り口付近にできるがんで、ほとんど自覚症状がありませんが、進行すると次のような症状が現れます。

・性交渉のときに出血する
・月経に関係のない出血がある
・茶色のおりものが増える、悪臭を伴う
・下腹部や腰が痛む

早期に発見されれば子宮頸部円錐切除術などにより子宮の温存も可能ですが、その後の妊娠における流早産のリスクを高めるなど、将来の妊娠・出産に影響が出る可能性があります。

また、より進行した場合は、広範囲な子宮摘出や放射線治療が必要となり、排尿障害、下肢のリンパ浮腫など様々な後遺症が生じることがあります。



◎子宮頸がんの原因は？

子宮頸がんのほとんどは、ヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）というウイルスの感染が原因であることがわかっています。

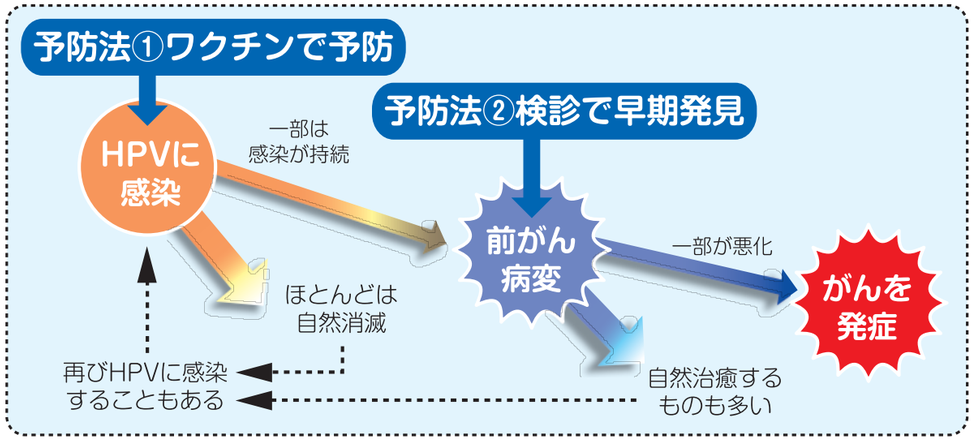
ＨＰＶは性交渉によって感染するので、性交渉の経験のある女性は誰でも子宮頸がんになる危険性があると言えます。

ＨＰＶに感染しても多くの場合は自然に消滅しますが、感染が続いたり繰り返されると、前がん病変（がんになる手前の状態）になり、さらにその一部ががんになります。

◎子宮頸がんの予防方法は？

子宮頸がんの予防方法は、「**HPVワクチンの接種（一次予防）**」と「**子宮頸がん検診（二次予防）**」です。

ＨＰＶワクチンを接種することによりウイルスの感染を防ぐこと、また、子宮頸がん検診により早期発見をすることが大切です。



厚生労働省作成リーフレット改変「ＨＰＶワクチンの接種を検討しているお子様と保護者の方へ」
詳しくはQRコードから→

～ＨＰＶワクチンの接種～

HPVワクチンの有効性は？

ＨＰＶワクチンは、子宮頸がんの原因の50～70%を占める２つのタイプ（HPV16型と18型）のウイルスの感染を防ぐワクチンで、ＨＰＶの感染や前がん病変を予防する効果が確認されています。

ＨＰＶによる子宮頸がんは前がん病変を経由して発生することをふまえると、子宮頸がんを予防することが期待されます。

HPVワクチン接種後に起こりえる症状は？

ＨＰＶワクチンを接種した直後に、接種した部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあり、まれに発熱やじんましんなどの症状が起こることもあります。

また、ワクチン接種後に、広範囲に広がる痛みや手足の動かしにくさなどの症状が起きたことが報告されていますが、これはＨＰＶワクチン接種歴のない方においても同様の症状を有する方が一定数存在したことが明らかとなっています。

HPVワクチンを接種したいと思ったらどうしたらいいの？

ＨＰＶワクチンは９歳以上の女性なら誰でも受けることができますが、より効果が期待できるのは性交渉を行う前です。

接種を希望する場合は、**かかりつけの医師またはお近くの医療機関にお問い合わせください。**

また、HPVワクチンは平成25（2013）年4月から予防接種法に基づく**定期接種として位置付けられており、定期接種対象者は公費（無料）で接種することができます。**現在、定期接種対象者に直接お勧めしていませんが、接種を希望される場合は接種できる医療機関が決まっていますので、お住まいの市町村にお問い合わせください。

＜定期接種＞

対 象 者：小学校６年生～高校１年生相当の女子
接種回数：２価ワクチン →0，1，6ヶ月の３回接種
４価ワクチン →0，2，6ヶ月の３回接種

※対象学年内に接種を行わないと有料になります。

ワクチン接種後に症状が生じた場合、どこに相談すればいいの？

ＨＰＶワクチン接種後に気になる症状が生じた場合は、すぐに接種を行った医師またはかかりつけの医師にご相談ください。

また、ＨＰＶワクチン接種後に生じた症状の診療に係る医療機関を県内に2か所設置しています。

岡山大学医学部附属病院産婦人科　電話：０８６－２３５－７２０５（地域医療連携室）
川崎医科大学附属病院産婦人科　電話：０８６－４６２－１１１１（内線２３６３０）

さらに、接種後に生じた症状によって受診する医療機関や日常生活のことなどで困ったことがあったときは、次の相談窓口にお問い合わせください。

岡山県保健福祉部健康推進課　電話：０８６－２２６－７３３１
岡山県教育庁保健体育課　電話：０８６－２２６－７５９１

岡山県マスコット「うらっち」

～子宮頸がん検診～

子宮頸がん検診はなぜ必要なの？

子宮頸がん検診は、がんと前がん病変を発見することができる検診です。

子宮頸がんは２０代で急増しているので、20歳以上の女性は検診を受けることをお勧めします。

ＨＰＶワクチンを接種していても完全には子宮頸がんを予防できないため、検診も必要です。

子宮頸がん検診ってどんなことをするの？

一般的な検診は、子宮頸部の細胞を採取して、細胞の異常の有無を検査します。

〈一般的な流れ〉

問診 → 視診 → 細胞診 → 内診

子宮頸がん検診を受けるにはどうしたらいいの？

子宮頸がん検診は、①市町村、②職場、③医療機関が実施しています。

①については、日時、場所、費用などは市町村によって異なりますので、お住まいの市町村にお問い合わせください。

②③については、それぞれ職場や医療機関にご確認ください。